

資料1 臨床実習終了までに修得すること(CATO)

患者・家族の心情によりそい、患者中心の医療を実践するために、医学生は臨床実習終了までに以下を修得しなければならない。

1.	適切なコミュニケーションによって医療面接を行い、必要な情報を得る。
2.	適切に身体診察を行い、必要な情報を得る。
3.	得られた情報から適切な臨床推論を行う。
4.	状況に応じて適切に症例提示を行う。
5.	得られた情報を統合して問題点を列挙し、それに即した適切な診断・治療・教育計画を立てる。
6.	臨床上の問題に対してエビデンスを収集し、批判的吟味を行った上で、患者への適用を検討する。
7.	診療録を遅滞なく、正確にわかりやすく記載する。
8.	医療安全上の問題を認識し、適切な行動をとる。
9.	多職種で適切に協働する。
10.	必要な情報を患者等と共有し、患者の主体的な意思決定を支援する。
11.	基本的臨床手技を安全かつ適切に実施する。
12.	得られた情報から緊急性を評価し、適切に初期対応を行う。

資料 2

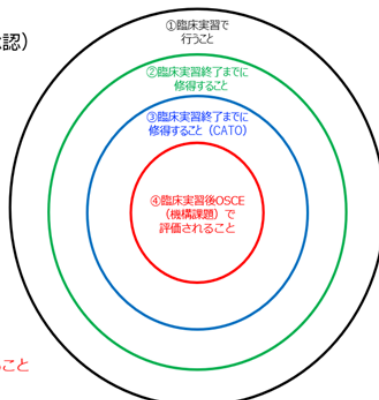
「臨床実習終了までに修得すること(CATO)」

患者・家族の心情によりそい信頼を得て、患者中心の医療を実践するために、医学生は臨床実習終了までに以下を修得しなければならない。

前文：	患者・家族の心情によりそい信頼を得て、患者中心の医療を実践するために、医学生は臨床実習終了までに以下を修得しなければならない。					
	1.適切なコミュニケーションによって医療面接を行い、必要な情報を得る。	2.適切に身体診察を行い、必要な情報を得る。	3.得られた情報から適切な臨床推論を行う。	4.状況に応じて適切に症例提示を行う。	5.得られた情報を統合して問題点を列挙し、それに即した適切な診断・治療・教育計画を立てる。	6.臨床上の問題に対してエビデンスを収集し、批判的吟味を行った上で、患者への適用を検討する。
臨床実習前 (臨床実習開始時)	・医療面接の冒頭で、挨拶・自己紹介・本人確認をする。 ・主訴、現病歴、既往歴、家族歴などの基本的な病歴を聴取する。 ・患者の疼痛や感情に配慮する。 ・患者・家族の解釈モデルを聞く。 ・言語的および非言語的コミュニケーションの重要性を理解している。	・医療安全に配慮する。 ・標準予防策を行う。 ・正しい手技で実施する ・身体診察時には羞恥心、不安、疼痛に配慮する。	・症候から主要な鑑別診断を列挙する。 ・基礎的な解剖・病態生理に基づいた臨床推論を行う。	・症例提示の目的や一般的な形式を理解する。 ・正しい医学用語を使用する。	・医学的、心理社会的、行動習慣、予防医学上の問題を含めたプロブレムリストを作成する。 ・主要な鑑別診断に対して、診断計画をたてる。 ・診療ガイドライン、クリニカルパスの意義を知っている。	・根拠に基づいた医療（EBM）の概念を理解する。 ・PICO（PECO）などを用いて臨床的疑問を定型化する。 ・エビデンスを検索しうる情報源を知っている。 ・エビデンスの初歩的な検索をする。 ・得られた文献を批判的に吟味する。
臨床実習後 (臨床研修開始時)	・臨床現場で診療録等の情報を用いて本人確認をする。 ・症候に沿って臨床推論しながら詳細に病歴を聴取する。 ・共感を示し良好な関係を築く。 ・患者・家族の多様性に配慮する。	・患者の状態に応じた診察をする。 ・得られた身体所見を適切に解釈する。 ・必要に応じて侵襲的医行為や羞恥的医行為を行う。	・頻度、重症度、緊急度などを考慮して鑑別疾患を列挙する。 ・臨床推論には限界があることを理解する。	・目的に応じて適切な対象や内容を選択する。 ・適切なタイミング・形式で症例提示を行う。 ・自分自身の中で明確な点と不明確な点を整理する。	・重症度、緊急度などを考慮したプロブレムリストを作成する。 ・患者中心の視点に立つて行動科学・社会科学に基づき基本的な診療計画を立てる。 ・診療ガイドライン、クリニカルパスを参考に計画を立てる。	・入手したエビデンスを批判的に吟味して、患者への適用を検討する。 ・根拠に基づいた医療が、医学の本質の一つであることを実践を通じて理解する。 ・医学知識が常に変わりゆくことを認識し、最新のエビデンス、診療ガイドラインを利用する。

前文：	患者・家族の心情によりそい信頼を得て、患者中心の医療を実践するために、医学生は臨床実習終了までに以下を修得しなければならない。					
	7. 診療録を遅滞なく、正確にわかりやすく記載する。	8. 医療安全上の問題を認識し、適切な行動をとる。	9. 多職種で適切に協働する。	10. 必要な情報を患者等と共有し、患者の主体的な意思決定を支援する。	11. 基本的臨床手技を安全かつ適切に実施する。	12. 得られた情報から緊急性を評価し、適切に初期対応を行う。
臨床実習前 (臨床実習開始時)	- 診療録の記載法（問題志向型医療記録など）を理解する。 - 診療録の閲覧ルールおよび守秘義務を遵守する。	- 医療安全上起こりうる問題の予防や対応について理解する。 - 臨床現場で起こりうる感染の予防や対策について理解する。 - 守秘義務を遵守する。 - 手消毒、個人防護具着脱など基本的な感染対策を行う。 - メンタルヘルスを含めた心身の健康管理を行う。	- 医師の役割を他の医療系学部学生に説明する - 自らの価値観や行動について、多職種及び他の医療系学部学生との関係性の中で認識する - 自らの知識や価値観を他の医療系学部学生に伝える - 病院・診療所・施設等の職場環境やチームや部門等の所属に応じた他職種の役割を理解している。	- 言語的および非言語的コミュニケーションの重要性を理解する。 - 患者等と情報を共有するための手法を理解する。 - 患者や家族の多様性に配慮してコミュニケーションをする。 - 専門用語を使わずに、わかりやすく説明する。 - 社会的背景の重要性を理解する。	- 模擬環境で以下をする <一般手技> - 体位交換、移送 - 皮膚消毒 - 外用薬の貼付・塗布 - 気道内吸引 - ネブライザー - 静脈採血 - 末梢静脈の血管確保 - 胃管の挿入と抜去 - 尿道カテーテルの挿入と抜去 - 皮下注射 - 皮下注射 - 筋肉注射 - 静脈内注射 <検査手技> - 尿検査(妊娠反応検査を含む) - 微生物学検査(Gram 染色を含む) 12 誘導心電図の記録 - 心電図モニター装着 - 臨床判断のための簡易エコー(FAST 含む) - 病原体抗原の迅速検査 - 簡易血糖測定 <外科手技> - 消毒操作 - 手術や手技のための手洗い - 手術室におけるガウンテクニック - 基本的な縫合と抜糸	- 模擬環境で以下をする - 意識レベルの判定 - バイタルサイン（体温、脈拍、血圧、呼吸数、経皮的酸素飽和度）の評価 - 一次救命処置（AED使用を含む） - アドレナリン自己注射器の使用 - 気道異物への対応
臨床実習後 (臨床研修開始時)	- 診療後に速やかに診療録を過不足なく記載する。 - 他職種と情報を共有できるように診療録を記載する。 - 医学的、心理社会的、行動習慣、予防医学上の問題を記載する。 - 紹介状、診断書、退院時要約などの診療記録の下書きを作成する。 - 病状説明の内容を診療録に記載する。	- 医療安全上の問題を認識した時、患者の身体的安全を確保して指導医等に報告する。 - インシデント・レポートを記載する。 - 医療安全、感染対策、医療倫理の研修を積極的に受ける。 - 針刺し事故など医療安全上起こりうる問題の予防や対応を行う。 - 臨床現場で起こりうる感染の予防や対策を行う。 - 守秘義務や個人情報保護の遵守する。	- 協働する関係者と互いに配慮し、役割、知識、意見、価値を伝え合う - 協働する職種で信頼関係を構築する。 - 意見の相違が生じうることを認識する。 - 互いの知識・技術を活かし合う。 - 多職種からの評価を通して、自らの態度・姿勢を省察する。	- 患者の経験を尊重し、価値観を明確にするように支援する。 - 患者の医療や生活に必要な社会的資源に関する情報を提供する。 - 理解したかどうかを患者さんの言葉で説明してもらう。 - 患者や家族との相互理解や同意のもとで意思決定を行う。	- 実際の現場または模擬環境で以下をする <一般手技> - 体位交換、移送 - 皮膚消毒 - 外用薬の貼付・塗布 - 気道内吸引 - ネブライザー - 静脈採血 - 動脈採血 - 末梢静脈の血管確保 - 胃管の挿入と抜去 - 尿道カテーテルの挿入と抜去 - 皮下注射 - 皮下注射 - 筋肉注射 - 静脈内注射 <検査手技> - 尿検査(妊娠反応検査を含む) - 微生物学検査(Gram 染色を含む) 12 誘導心電図の記録 - 心電図モニター装着 - 臨床判断のための簡易エコー(FAST 含む) - 病原体抗原の迅速検査 - 簡易血糖測定 <外科手技> - 消毒操作 - 手術や手技のための手洗い - 手術室におけるガウンテクニック - 基本的な縫合と抜糸	- 実際の現場で以下をする - 意識レベルの判定 - バイタルサイン（体温、脈拍、血圧、呼吸数、経皮的酸素飽和度）の評価 - 生理学的異常の徴候を認識して、医療チームに連絡し、モニターの装着・酸素投与・静脈路確保を行う - 緊急性の高い患者に対する二次救命処置を含む初期対応を補助する - 外傷の初期対応を補助する - アナフィラキシーショックの対応をする - 一次救命処置（AED使用を含む） - 気道異物への対応

課題のあり方概念図
(2021.07.15実施管理小委員会承認)



- ①臨床実習で行うこと
- ②臨床実習終了までに修得すること
- ③臨床実習終了までに修得すること (CATO)
- ④臨床実習後OSCE（機構課題）で評価されること

「臨床実習終了までに修得すること (CATO) 」と「医学教育モデル・コア・カリキュラム (令和4年度改訂版) 対応表

対応表解説： 行動表解説： 行動は他の方法で評価することが求められるを示している。 対応表の作成にあたっては、医学教育モデル・コア・カリキュラムの「医師として求められる基本的な資質・能力」の第2層までの記載を参考にした。表に○がついていなくても、何らかの対応が必要の場合があることに留意されたい。また、医学教育モデル・コア・カリキュラムが（卒前？）医学教育全体を対象とするのに対して、「臨床実習終了までに修得すること (CATO) 」は主に臨床実習の場における学習を対象としている。	医師として求められる基本的な資質・能力 (モデル・コア・カリキュラム)									
	PR	GE	LL	RE	PS	IT	CS	CM	IP	SO
臨床実習終了までに修得すること (CATO)	プロフェッショナル	総合的に患者・生活者をみる姿勢	生涯にわたって共に学ぶ姿勢	科学的探究	専門知識に基づいた問題解決能力	情報・科学技術を活かす能力	患者ケアのための診療技能	コミュニケーション能力	多職種連携能力	社会における医療の役割の理解
	Professionalism	Generalism	Lifelong Learning	Research	Problem-Solving	Information Technology	Clinical Skills	Communication	Interprofessional Collaboration	Medicine in Society
1.適切なコミュニケーションによって医療面接を行い、必要な情報を得る。								○		
2.適切に身体診察を行い、必要な情報を得る。								○		
3.得られた情報から適切な臨床推論を行う。					○					
4.状況に応じて適切に症例提示を行う。										
5.得られた情報を統合して問題点を列挙し、それに即した適切な診断・治療・教育計画を立てる。					○					
6.臨床上の問題に対してエビデンスを収集し、批判的意味を行った上で、患者への適用を検討する。	○	○			○	○	○			
7.診療録等を遅滞なく、正確にわかりやすく記載する。						○				
8.医療安全上の問題を認識し、適切な行動をとる。								○	○	
9.多職種で適切に協働する。								○	○	
10.必要时情報を患者等と共有し、患者の主体的な意思決定を支援する。								○	○	○
11.基本的臨床手技を安全かつ適切に実施する。										
12.得られた情報から緊急性を評価し、適切に初期対応を行う。										